

## 令和4年度 第2回吹田市小学校給食調理等業務委託事業者選定委員会 議事録

### 1 日時

令和4年6月7日(火) 午前9時20分～午後4時55分

### 2 場所

吹田さんくす3番館 4階 教育委員室

### 3 出席委員

委員長 吹田市立小学校校長  
副委員長 公認会計士  
委員 吹田市PTA協議会代表者  
吹田市立小学校教頭  
吹田市立小学校栄養教諭

### 4 次第

- (1) 財務関係説明
- (2) プレゼンテーション (10 事業者)
- (3) 評価点集計
- (4) 協議 (事業者選定)

### 5 議事概要

以下のとおり

○**委員長** これより第2回吹田市小学校給食調理等業務委託事業者選定委員会を開催する。  
本日のスケジュールの流れについて事務局に説明を求める。

○**事務局** まず、参加事業者数と選考方式について説明する。今回吹田市小学校給食調理等業務委託事業者選定に応募した事業者は12者であり、辞退した事業者が2者あったため、本日のプロポーザル参加事業者は10者となっている。

次に選考方式について説明する。各事業者のプレゼンテーションの時間は、提案説明が

15分、質疑応答が15分の合計30分間である。委員は事業者からの提案説明後、提案説明や提案書の内容についての質疑を事業者に対して行うことになる。

それぞれの事業者のプレゼンテーション開始前に事務局より評価基準書を配付する。質疑応答が終了次第、評価基準書に点数の記入をお願いする。

事業者の評価についてだが、第1回事業者選定委員会において、プロポーザルの際に評価の基準となるものを提示することになっていた。「評価基準書の配点基準」という書類を配付しているので評価の際の参考にさせていただきたい。

評価基準書の評価項目のうち「小学校給食受託実績」の①～③及び「職員配置」の①～④と⑥については、あらかじめ事務局で内容を確認し、点数化している。

なお、「職員配置」の⑤アレルギー除去食等個別対応の人員については提案書等に記載がないため、調理対応の食物アレルギー除去食の項目とともに審査し、点数を記入することとなる。

また、「企業の財務状況」については、あらかじめ公認会計士がそれぞれの事業者の評価を点数化している。

これらの点数を10者のプレゼンテーション終了後に委員に提示するので、それを参考にして評価基準書への記入をお願いする。

次に、評価基準書に記入した点数を採点表に転記をお願いする。

委員の採点后、採点表を事務局が回収し、点数の集計作業を行う。委員全員の評価点から価格点を除いた合計点数が6割以上であることが採択の対象である。

そのため、価格点に当たる「提案金額」の点数(20点)を評価点の合計(140点)から差し引いた点数(120点)が1名分の点数となる。そこから5名分を乗じた合計点数(600点)の6割は360点となり、360点以上が採択の対象となる。

○**委員長** 今の説明について、質問はあるか。

(発言なし)

プレゼンテーションに先立ち、決算関係書類の説明を副委員長をお願いする。

○**副委員長** 各者の財務状況について説明をする。

10者の決算書を3年分確認した。会社の規模が大きいこともあり、すべて財務的に健全であり、売上・安全性・流動資産がどれだけ手元に残っているかで評価した。流動比率に関してはどの企業も160以上あるため不合格ということはない。

○委員長 財務状況の説明について、質問はあるか。

(発言なし)

次に、プレゼンテーションに移る。



○A者 (プレゼンテーション 事業者説明)

(質疑応答)

○委員 食物アレルギー除去食対応は誰が行うのか。

○A者 基本的には副責任者が行うが、別の正規職員とペアを組んで行う。

○委員 異物混入が起こった際の対応方法と、どのような再発防止策を行うのか。

○A者 異物混入があれば、まずは栄養教諭や教頭、校長に報告をする。同時に会社にも報告をした後、原因を探る。原因が判明すれば今までの経験を踏まえ、現場の責任者や副責任者、栄養教諭と共に対策を考えていく。最終的には報告書にまとめて学校及び教育委員会に提出する。

○委員 具体的に今まで実践してきた食育に関する取り組みはあるか。また、行事等により給食の提供時間を学年によって変更することは可能か。

○A者 提供時間の変更は問題なく対応できる。学校の先生を通じて、短縮授業の時は提供時間を早くしたり、学年によって提供時間を分けたり、6年生の卒業献立として一品多く献立を用意したりした。学校の先生と話し合い、通常の人員では支障が出ると判断した場合は他市の従業員に応援要請をすることもある。

○委員 保護者や地域の方に向けての取り組みの実績はあるか。

○A者 他市での事例としては、児童の遠足等により通常より給食を提供する量が少ない日に、保護者に給食を提供し、意見交換をしたことがある。調理員の士気の向上に繋がり、

保護者にとっても普段の児童の環境を知る機会にもなるため、大切なことであると認識している。



○B者 (プレゼンテーション 事業者説明)

(質疑応答)

○委員 責任者と副責任者の配置について、異動と募集の両方を選択しているが説明を求めらる。

○B者 基本として募集を行う。ただし、安心して任せられるようになるまでは、本社の指導員を配置する。

○委員 異物混入が起こった際の対応方法と、どのような再発防止策を行うのか。

○B者 まずは原因究明を第一に考えているため、現場や営業の人間、学校の先生と協力して解決したい。再発防止策としては、食数が多くても少量ずつを手にとって目視確認をしたり、マニュアルに定められた洗浄回数を守るなど事故を起こさないように注力している。

○委員 具体的に今まで実践してきた食育に関する取り組みはあるか。また、行事等により給食の提供時間を学年によって変更することは可能か。

○B者 給食の提供時間の変更について、柔軟に対応する。また、他市での事例としては給食センターで給食の献立ができるまでの流れを説明したことがあるが、最近はそのような機会が少なくなっている。さらには、どんな人が給食を作っているのかを児童に見てもらうために調理員の顔写真や自己紹介等を掲載したり、給食を提供するときに簡単に食材の説明をして親近感を持ってもらうように心掛けている。

○委員 新型コロナウイルス感染症から調理員を守る手立てなどは考えているか。

○B者 従事者との様々なコミュニケーションを大切にし、体調不良のまま出勤することが無いように気を付けている。また、感染した人が現場に復帰する際にはフォローとして会社が本人の心のケアを行っている。

○委員 保護者や地域の方に向けての取り組みの実績はあるか。

○B者 当社は学校給食だけではなく様々な施設へ給食を提供しているため、もしお祭りで屋台を出す機会があれば広い知見を活かして参加したい。また、実際の事例としては、給食センターの新規オープンの際に近隣住民に給食を提供したことがある。



○C者 (プレゼンテーション 事業者説明)

(質疑応答)

○委員 C者が受託を希望している小学校は構造が複雑で配膳などが大変である。調理補助員の雇用時間が短く、作業を円滑に進めることができるのか心配であるが、どの時間帯を予定しているのか。

○C者 9時から15時を予定しているが、あくまでも最終的に慣れてきた時の時間帯を示している。受託開始から慣れるまでの当面の期間については、しっかりと時間をかけて体制を整える。

○委員 食物アレルギー除去食対応は誰がするのか。

○C者 基本的には責任者、もしくは給食調理の経験が豊富な社員が対応するように考えている。

○委員 異物混入が起こった際の対応方法と、どのような再発防止策を行うのか。

○C者 異物の内容にもよるが、まずは原因の究明に取り組む。野菜を洗浄するときについていたのか、調理場内に虫が飛んでいたのかなどを調査し、原因に応じた解決策を出して

いく。実際行っていることとして、調理場への入室時に髪の毛が衣服に付いていないかをローラーで確認することに加え、30分に1回タイマーをかけて髪の毛がはみ出していないかを相互に確認をしている。また、袋を開封する際には切り口の照合をしたり、手袋を使用する際は一度手袋内を水で満たし、穴が開いていないかの確認を行ったりしている。

○委員 具体的に今まで実践してきた食育に関する取り組みはあるか。また、行事等により給食の提供時間を学年によって変更することは可能か。

○C者 今まで行ってきたことは、七夕のときは社員が笹に短冊を付けて願い事などを書いたり、ハロウィンのときは大きいかぼちゃを自作して飾ったり、虫歯対策にポスターを作ってきた。時間変更に関しては基本的には学校に合わせて柔軟に対応していく。

○委員 保護者や地域の方に向けての取り組みの実績はあるか。

○C者 PTAが主催している親子クッキングに参加したことがあり、近い距離間で保護者と関わることができた。

---

○D者 (プレゼンテーション 事業者説明)

(質疑応答)

○委員 委託当初の人員配置は非常に大切であると感じている。調理員の勤務時間をどのように考えているか。

○D者 多少勤務時間は前後はするが、朝9時ごろから洗浄が終了するまでを考えており、途中1時間の休憩をはさむようにする。

○委員 異物混入が起こった際の対応方法と、どのような再発防止策を行うのか。

○D者 責任者から学校の栄養士へ報告を行い、学校長を始めとする関係者と協議を行ったうえで対応する。会社への連絡は、初めに責任者から担当係長へ第一報を入れ、事業部

長へと連絡がまわる。また、事故事例や体調不良者等の情報はWEBシステムで管理しており、会議をとおして全従業員と情報の共有をしている。再発防止策として、従業員には普段行うべきことができているかの再確認に加え、課長級の者が不定期に巡回を行い、従事者の意識向上に繋げている。

○委員 具体的に今まで実践してきた食育に関する取り組みはあるか。また、行事等により給食の提供時間を学年によって変更することは可能か。

○D者 他市での事例では運動会や文化祭の会場設営、敷地内の案内係など調理に限らず、飲んで学校行事に参加したことがある。また、残食を減らすために校内放送を利用してその日の給食についてのコメントを発信したことがある。給食の提供時間の変更については柔軟に対応していく。

○委員 保護者や地域の方に向けての取り組みの実績はあるか。

○D者 新型コロナウイルス感染症による影響で交流ができにくい状況ではあるが、クラス単位や週毎など人数を絞って少人数で交流をしたことはある。

○副委員長 新型コロナウイルス感染拡大防止の取り組みは行っているか。

○D者 現場内では密にならないように注意し、食事の時間をずらしたり離れて食べたりしている。会社からは常にポスターで啓発したり、管理職からの注意喚起を行うなどの対応をとっている。

---

○E者 (プレゼンテーション 事業者説明)

(質疑応答)

○委員 人員配置について、今回の配置は全員を新規募集するのか。

○E者 正社員に関しては、異動で考えている。正社員以外は新規募集する。提案書の記載

内容は間違いである。

○委員 異物混入が起こった際の対応方法と、どのような再発防止策を行うのか。

○E者 まずはすぐに報告を行う。その後、提供の可否を確認し、対応する。提供終了後に事故の原因追求を行い、見合った再発防止を行う。報告書については吹田市の所定のフォーマットがあればそのフォーマットを活用し、ない場合については弊社のフォーマットを使用し、必ず提出する。

○委員 具体的に今まで実践してきた食育に関する取り組みはあるか。また、行事等により給食の提供時間を学年によって変更することは可能か。

○E者 食育として調理員が児童と一緒にご飯を食べた事例はある。また、普段の児童との関わりとして食缶を渡すだけでなく、声かけ等、細かいコミュニケーションを欠かさないようにしている。提供時間については、可能な範囲で対応する。

○委員 保護者や地域の方に向けての取り組みの実績はあるか。

○E者 他市での事例では試食会を開催し始めているところがある。それ以外の取り組みについては、こちらが主導して行うことは少なく、どちらかというと依頼に答える形になっているのが実情である。給食委員会などの会議に参加できれば、ノウハウはあるので提案していきたい。



○F者 (プレゼンテーション 事業者説明)

(質疑応答)

○委員 配置人員について、1人の異動以外は全員、新規雇用の予定だが大丈夫か。

○F者 他自治体からの異動と指導インストラクターを必要数投入して、地元で雇用した人の育成を進めながら、立ち上げを図っていく。まずはパートとして吹田市民の方を雇用



し、意欲的な方を社員として登用することで将来的には地元の方たちが、自分たちの働く職場に愛着を感じて、長く働けるようにしたい。

○委員 食物アレルギー除去食対応は誰が行うつもりか。

○F者 基本的に除去食の対応は、副責任者が調理をし、責任者がチェックをして、栄養士の先生に確認をお願いすることを想定している。

○委員 異物混入が起こった際の対応方法と、どのような再発防止策を行うのか。

○F者 ヒヤリハットも含めてその日起きたことは、直ちに担当業務マネージャーに報告が上がる仕組みを設けている。本部で改善策を立て、ヒヤリハットを起こした現場だけではなく、受託しているすべての事業所に向けてタブレット端末を使って一斉配信をし、繰り返し行うことで習慣化・意識化をはかる。

○委員 具体的に今まで実践してきた食育に関する取り組みはあるか。また、行事等により給食の提供時間を学年によって変更することは可能か。

○F者 コロナ禍において、児童に自分が食べたいと思う献立を考えてもらい、弊社の栄養士が給食の献立として形になるようにし、実際に給食のメニューとして提供した。その献立には地元食材を使用し、食材の流通を教えるような形で行ったが大変好評だった。提供時間については早出しが必要な場合、あらかじめ分かっていたら、応援を手配する形で、希望のスケジュールで提供することを約束する。

○委員 保護者や地域の方に向けての取り組みの実績はあるか。

○F者 保護者の方への説明会や試食会を開催したことはある。初めて受託する学校には取り組み等をまとめた冊子を作成・配布した。また、保護者がイメージしやすいようにYoutubeで、手洗い等の作業の様子を配信したケースもある。

○委員 新型コロナウイルス感染症に関して対策や感染時のフォロー体制はとれているか。

○F者 調理員には365日健康チェックの記録を義務づけている。また、給食室の中でも時間差での着替えや休憩室にパーテーションを設置するなど、新しい生活様式を色々な形で取り入れている。万が一感染者が出た場合には、周辺の事業所より応援を手配する。



○G者 (プレゼンテーション 事業者説明)

(質疑応答)

○委員 食物アレルギー除去食以外の欠食対応もしているのか。

○G者 他市では調味料等の細かい欠食対応をしている実績もあるので、様々な対応を提案できる。

○委員 調理員を守るためにしていることはあるか。

○G者 配膳時にフェイスシールドの使用、マスクの二重着用を行っている。

○委員 異物混入が起こった際の対応方法と、どのような再発防止策を行うのか。

○G者 まずは原因を追究し、事故の原因になるものを取り除く。当日の食事の提供については、学校長や教育委員会と協議のうえ、対応する。

○委員 既に吹田市の業務を受託している点からアピールできることはあるか。

○G者 現在の受託校と連携を取りつつ、人員を異動で配置することで、吹田市をよく知っている人員を準備でき、万全な体制をとることができる。

○委員 保護者や地域の方に向けての取り組みの実績はあるか。

○G者 調理実習のお手伝いやPTA主催の餅つき大会等に協力した。また、動画を使った研修に力を入れているので、動画を使用した企画の提案ができる。

---

○

○H者 (プレゼンテーション 事業者説明)

(質疑応答)

○委員 配置人員について、責任者・副責任者以外の調理員は資格をもっている者であるか。

○H者 調理師免許取得者の配置を予定している。

○委員 異物混入が起こった際の対応方法と、どのような再発防止策を行うのか。

○H者 担当する指導員が駆け付けて対応する。原因の究明をするとともに再発防止策を考え、指導員を通して落とし込みを行う。

○委員 具体的に今まで実践してきた食育に関する取り組みはあるか。また、行事等により給食の提供時間を学年によって変更することは可能か。

○H者 教室で児童と一緒に給食を食べて児童と話をしたり、使っている器具を見てもらう食育を行った。時間変更に関してはできる限り対応し、事前にわかっていたら前日の夕方にミーティングを行い、作業工程を組む。

○委員 保護者や地域の方に向けての今後考えている取り組みはあるか。

○H者 どうすればコロナ禍で試食会ができるのか、どうしたら密にならない触れ合いができるかなどを考え、提案をしていくことが今後重要になってくる。

---

○

○I者 (プレゼンテーション 事業者説明)

(質疑応答)

○委員 I社が受託を希望している小学校は、今後児童数が増加し、負担も大きくなっていく。業務上問題はないか。

○I者 1000食を超える学校になっていくということは十分承知している。責任者を含め、今のメンバーをどこかに異動することは予定していない。

○委員 異物混入が起こった際の対応方法と、どのような再発防止策を行うのか。

○I者 まず責任者から連絡が入り、その原因を徹底的に探る。そこから対応策を協議し、学校及び教育委員会に報告し、再発防止を図る。

○委員 具体的に今まで実践してきた食育に関する取り組みはあるか。また、行事等により給食の提供時間を学年によって変更することは可能か。

○I者 試食会や地域行事への参加、授業で給食ができ上がるまでの過程をお話した事例もある。時間変更等に関しては、現場のメンバーだけで足りない場合は、本社のスタッフが入ることで可能な限り協力する。

○委員 保護者や地域の方に向けての取り組みの実績はあるか。

○I者 他市での事例としては、地域行事への参加などを数年前までは頻繁に行っていた。コロナ禍により出来なくなってきたが、徐々に再開してきている。感染対策をしながら可能な範囲で、対応していく。

○委員 調理技術指導について、社員が継続的に技術を高い状態にするための社内ルールなどはあるか。

○I者 食材の切り方や調理の手順など、すこしでも美味しく調理できるように夏休みなどを利用して定期的に情報交換や研修会を実施している。



○J者 (プレゼンテーション 事業者説明)

(質疑応答)

○委員 パート従事者は吹田市の学校の保護者も多く、行事が重なって、休みの希望日が被ることもありうる。どのように対応するのか。

○J者 原則として地元雇用を行っているので、そのケースはある。学校行事は前から決まっていることが多いので、他市からの応援で事前に準備する。

○委員 異物混入が起こった際の対応方法と、どのような再発防止策を行うのか。

○J者 まずは原因を追求し、対応策を検討する。対応策については責任者を中心に、調理員や正規、非正規職員にかかわらず、全員で対応策を考え、必ず周知徹底するように実施している。併せて、チェック表を作成し、問題がないかの確認を行い、書面で残していく。

○委員 プレゼンテーションにあった「給食探検隊」はいつ頃行っているのか。

○J者 夏休みもしくは春休みの長期休暇の前後で1年生もしくは2年生を中心に行うことが多い。

○委員 他の市や県で好評だった取り組みはあるか。

○J者 動画で実物の給食室の様子を見ながら、アルミホイルで作った回転釜と実物のスパテラを使用して、教室の中で調理の疑似体験をしてもらった。調理員と一緒に給食を食べたり、調理の工程や食材の話をした事例もある。

○委員 保護者や地域の方に向けての取り組みの実績はあるか。

○J者 コロナ禍で保護者が学校に来ることも少なくなっている中、食材の納入、調理、配膳、児童が食べる様子をまとめた「給食調理室の1日」という動画を作り、保護者限定という形で公開した。

○委員 新型コロナウイルス感染症に関して、なにか対策を行っているか。

○J者 対策本部を作り、会社全体で取り組んでいる。健康管理に加え、調理員同士を極力接触させないようにすることが重要である。

---

(採点表集計及び集計結果発表)

○事務局 各委員の採点を一覧表示する。各自採点に誤りがないか確認をお願いする。

(誤りなしと確認)

全者とも各委員の合計点数が360点を上回っているため、採択の対象となる。集計結果では、1位と順位付けした委員数が最も多い事業者は、G者であるため全体を通しての最優秀提案者は、G者である。G者の希望調査表では2校受託希望しており、希望校である桃山台小学校及び山手小学校の最優秀提案者となる。次に、千里丘北小学校を希望しているのはI者のみ、西山田小学校及び山田第三小学校を希望しているのはJ者のみであり、それぞれの学校の最優秀提案者となる。

○委員長 選定結果について事務局の説明のとおり決定してよいか。

(「異議なし」と呼ぶものあり)

それではG者を桃山台小学校及び山手小学校、I者を千里丘北小学校、J者を西山田小学校及び山田第三小学校の最優秀提案者と決定する。

○事務局 選定結果に基づいて、各校の最優秀提案者に対して契約事務を進めていく。

○委員長 議事が終了したので、これをもって第2回吹田市小学校給食調理等業務委託事業者選定委員会を終了する。